

■今月の特選句

2012年11月号

指示代名詞とびかっている敬老の日

高橋 都

あの…、なんだ。その…、つまり、こいつがいつものさあ、あれがこうなったもので、ええと、名前なんだったかな。ああ、これをああして…そうそう。

四五冊も積めば枕や秋灯下

田村米生

出版業界も枕になる書籍を売りにすべきです。カバーは思い切り柔らかく、紙質はスポンジ状態。BGMの催眠誘導曲を聞けるそんな本がいいね。

台風の眼しとどと濡れにけり

西をさむ

台風の目の部分は、雲が無いから濡れる筈がない、などと科学的なことを言っただけは詩人にはなれない。科学を知らない人だけが詩人になれる。

地動説どうでもよくて大根引

有富洋二

大根は回しながら引く、つまり毛細根を切りながら抜くのが「ワザ」なんです。それを知らない人は尻餅ついて目を回し、地球はやっぱり回ってる。

毛糸だま編むつもりだった過去がある

石川節子

編みかけてやめてしまった苦い過去。編み終えた途端に彼がサヨナラと去った悲しい過去もある。この娘の恋の喜怒哀楽を、すべて知ってる毛糸玉。

赤い羽根付けて真顔になりけり

井口夏子

赤い羽根をつけた途端に誰でも善人になれる。肩で風きる兄ちゃんも、ヤンキー歩きのお姉ちゃんも、紳士淑女に変身の魔法の小道具、赤い羽根。

■今月の秀逸句（・・・七七をつけてみました）

貧すれば絆の切れるうすら寒

・・・垂れる水漬袖で拭ふよ

青木輝子

自らが粗大ゴミめく良夜かな

・・・ポリの袋を被って寝るか

飯塚ひろし

痒き背を搔くものとして秋扇

・・・秋刀魚焼くにも便利してゐる

久我正明

ナイターのテレビ観戦はな毛抜く

・・・ドラマを観つつ鼻糞丸め

小杉 隆

月光にのぞき見趣味があるらしい

・・・月の光はスケベな奴だ

小林英昭

秋の蚊にせまられているエレベーター

・・・だから個室は危険なんじやよ

村上美和

よそ者と見破られてる里祭

・・・開き直って東京言葉

黒田忠一

ブランコのスカートめくる秋の風

・・・だけど結局飽きの風だろ

渡辺さだを

モンローのやうに振舞ひ金魚の尾

・・・赤く分厚い口を突き出し

柳 紅生

テント裏受賞疲れの菊休む

・・・菊師も横で三尺寝とか

伊地知寛

ギラギラにあらずキラキラ秋の海

・・・濁点とれば輝きを増し

藤原セツ子

自己主張しても所詮は吾亦紅

・・・風に首振りいやいやすれど

麻生やよひ

稲刈って活断層の棚田かな

・・・だから今年も良い米が穫れ

板倉肱泉

■今月の滑稽句

- | | | |
|------|---|----------------------|
| 【佳作】 | 生身魂あてがい扶持に身を任せ
カタカナ語横文字解せぬ生身魂 | 青木輝子
青木輝子 |
| 【佳作】 | 穠穂の勢ひ強し早場米
吾を避けて小路に隠れ秋いくつ
色失せし老い二人行く大花野 | 青山桂一
青山桂一
青山桂一 |
| 【佳作】 | 朝の月稲を刈りみる農ガール
近いうちお迎へ来ぬやう月仰ぐ
歩け歩け野菜食べると天高し | 秋月裕子
秋月裕子
秋月裕子 |
| 【佳作】 | 氏素性なんぞいまさら敬老日
逃げつぷり百戦錬磨の稲雀 | 麻生やよひ
麻生やよひ |
| 【佳作】 | 耳底にシュプレヒコール初時雨
花八手母の初恋聞かされる
郷の蔵禁書みつけた文化の日 | 足立淑子
足立淑子
足立淑子 |
| 【佳作】 | 人の名を喉に詰ませ文化の日
浅漬を合図に宴終わりけり | 有富洋二
有富洋二 |
| 【佳作】 | 見栄で買ひし松茸悔いを噛みしめる
今風の案山子も混じる学校田
花野行く万歩計より線量計 | 有吉堅二
有吉堅二
有吉堅二 |
| 【佳作】 | 父の背で寝難そうなる七五三
首かしげ鳩が見上げる千歳飴
卒中か落ち葉に混じる黄金虫 | 栗倉健二
栗倉健二
栗倉健二 |
| 【佳作】 | 換気扇へ紫煙まっすぐそぞろ寒
夫婦鴉熟柿を全部胃袋に
入退院今年は虫を聴き損ず | 安藤淑子
安藤淑子
安藤淑子 |
| 【佳作】 | 松茸を山のダイヤと呼びにけり
長き夜や隣の時計ボンと鳴る | 飯塚ひろし
飯塚ひろし |
| 【佳作】 | 蟻螂のスローパンチを受けてみよ
洗濯のパンツに放す放屁虫 | 井口夏子
井口夏子 |

- | | | |
|------|---|----------------------|
| | 老女鬢鑱日帰り遠足檜山まで | 池田亮二 |
| 【佳作】 | 敬老日長老鬢鑱色好み | 池田亮二 |
| | ほんとうはバターピーが好き落花生 | 石川節子 |
| 【佳作】 | 正直に胃は欲したる根深汁 | 石川節子 |
| 【佳作】 | 曼珠沙華赤い恋して戻りけり
人見知り日焼けし吾を笑ひけり | 板倉肱泉
板倉肱泉 |
| 【佳作】 | 格安の航空便の神の旅
薬石効ありて卒寿の零余子飯 | 伊地知寛
伊地知寛 |
| | 知らぬまに柳条湖となり秋暑し | 伊藤浩睦 |
| 【佳作】 | 颱風に傘をさすのは町の人
発煙筒色なき風に色つけて | 伊藤浩睦
伊藤浩睦 |
| 【佳作】 | ゆつくりと歩いて秋の風となり
確かむるときの瞬き流れ星
萩の花こぼれてみたり傾きて | 稲沢進一
稲沢進一
稲沢進一 |
| | G Gと名を改める敬老日 | 井野ひろみ |
| 【佳作】 | 気ままにてついぞ愁思のなかりけり
神の留守それでも願い託したく | 井野ひろみ
井野ひろみ |
| | 集いたる蛍雪の友逆蛍 | 入江澄泉 |
| 【佳作】 | 日焼けして剥けたる皮や化けの皮
梔子の名に惹かれつつ独り旅 | 入江澄泉
入江澄泉 |
| 【佳作】 | 短足の三代揃ふ七五三
テコンドー稽古見ている竈馬
季重なりさけて三五夜寝不足に | 宇井偉郎
宇井偉郎
宇井偉郎 |
| | 栗の枝と共に堕ち来し野猿かな | 宇佐美徹郎 |
| 【佳作】 | 道の辺の馬の鼻先木槿咲く
カーナビの電波錯綜銀河かな | 宇佐美徹郎
宇佐美徹郎 |
| | 談志の忌「ダンシガシンダ」去年の秋
賈物の襟巻にあるルイビトン | 氏家頼一
氏家頼一 |
| 【佳作】 | どの星になつたか友よ冬銀河 | 氏家頼一 |
| | 鯉飛んで臍の話は若きころ | 越前春生 |
| 【佳作】 | 昭和一桁可も不可もなき良夜かな | 越前春生 |

- 金木犀脳細胞の涙して 越前春生
- 【佳作】 昼下がりにすでに紅注す白木槿 奥脇弘久
雨上る男世帯に赤のまま 奥脇弘久
蠨螂も老眼鏡を享受して 奥脇弘久
- 【佳作】 フェルメールの少女のすが目秋さびし 笠 政人
金輪際おんぶぶったの離れざる 笠 政人
暁闇の尿意又ぞろちろ鳴く 笠 政人
- 声嘎れて半信半疑榎櫃の実 加藤 賢
稲妻の方へ方へと高速路 加藤 賢
- 【佳作】 顎をもてしゃくらるる月仰ぎたる 加藤 賢
- 【佳作】 青空をもらって咲くや露の草 門屋 定
おすそ分け気持ちで返す実南天 門屋 定
秋耕額の汗を風が拭く 門屋 定
- 山路来て探しあぐねる墓参かな 金澤 健
【佳作】 人馬共肥えて大地を揺るがせり 金澤 健
オスカルが訛りを隠す村芝居 金澤 健
- 【佳作】 敬老日 うやまふ人の人の多過ぎる 川島智子
子の様に雌におんぶの雄バツタ 川島智子
斑猫に従ひ行きて迷ひけり 川島智子
- 【佳作】 よだれとも果汁とも言え水蜜桃 久我正明
白桃の影を押さえる重き尻 久我正明
- まつとうに咲いてをります女郎花 工藤泰子
【佳作】 をとこへし男と知らず折りとりぬ 工藤泰子
水澄めど補陀落渡海したくなし 工藤泰子
- 縞蚊軍日本列島制圧蚊 黒田忠一
【佳作】 腹の虫治まる熱燭一杯で 黒田忠一
- 【佳作】 稲刈りの丸くは刈らぬ耕耘機 小泉花子
二の腕に止まるやぶ蚊の太鼓腹 小泉花子
一皮の剥けてリンゴの色白に 小泉花子
- 【佳作】 河豚食らひ成りし文豪神楽坂 小杉 隆
弁天と混浴せしや秋怒涛 小杉 隆

- | | | |
|------|--|-------------------------|
| 【佳作】 | ここだけのはなししてゐる秋扇
手をすりて命乞ひする秋の蠅 | 小林英昭
小林英昭 |
| 【佳作】 | まだ似合うつもりで着てる一張羅
黙ってる方が利口に見えている
日曜のシャッター街で遊ぶ猫 | 齋藤八兵衛
齋藤八兵衛
齋藤八兵衛 |
| 【佳作】 | 秋茄子を嫁御に食わす世相かな
受験子の避けて通るやさるすべり
騎馬戦に女子の勝利や運動会 | 酒井鹿洋
酒井鹿洋
酒井鹿洋 |
| 【佳作】 | 寒著き一物の的さだまらず
女童に愛ささやかかる七五三
関節を軋ませながら寒詣で | 佐藤古城
佐藤古城
佐藤古城 |
| 【佳作】 | 鈴虫の鳴かなくなりて寒露かな
秋の蚊の直撃快樂園茶室
鹿除けのフェンスに嗅がし結びたる | 佐野萬里子
佐野萬里子
佐野萬里子 |
| 【佳作】 | 別世界介護会場蟻走る
冷し酒向腹兵士下土投げる
天高し投げ掛け投げの千秋楽 | 柴田真一
柴田真一
柴田真一 |
| 【佳作】 | 一本の松茸に沸く大家族
落ちこぼれ一羽もなくて鳥渡る
つまづいてばかりの余生おけら鳴く | 清水吞舟
清水吞舟
清水吞舟 |
| 【佳作】 | あの人の名前ふたりで秋灯下
颱風の我もわれもと勢を出す
喉越しの松茸秋を惜しみけり | 下嶋四万歩
下嶋四万歩
下嶋四万歩 |
| 【佳作】 | 丸でAKB朝顔カーテン花の数
日焼けする高校球児声までも
これ以上何脱げばよし熱帯夜 | 壽命秀次
壽命秀次
壽命秀次 |
| 【佳作】 | 天高しどこまで伸びし孫の丈
遠巻きの猫に一喝秋刀魚焼く
旗日とはちよいと大袈裟敬老日 | 白井道義
白井道義
白井道義 |
| 【佳作】 | 何も語らない彼岸花の雄蕊
どうもこうもないコスモスに負けている | 鈴木和枝
鈴木和枝 |

	脈もガチャンガチャン年取る音	鈴木和枝
	焼肉に必ずキャベツ千切りに 秋の暮待ち合わせ場所大通り	鈴木哲也 鈴木哲也
【佳作】	月灯り都会をこいでくみんなかな	鈴木哲也
	錠前の講習受ける夜長かな	高田敏男
【佳作】	雲隠れまるでマジック後の月 すずめ追ふ迫力の無き案山子かな	高田敏男 高田敏男
	熟睡をたたき起こされ運動会	高橋マキコ
【佳作】	屋上まで鈴虫と乗り合わず	高橋マキコ
【佳作】	内憂外患なれど私も馬も肥ゆ 生身魂ばかり集まり盆用意	高橋 都 高橋 都
	手招きし諸刃の剣の青芒 皮を脱ぐトマトはどつぷり湯につかり	高橋素子 高橋素子
【佳作】	鉦叩夢に現に夜の寝間	高橋素子
	ちちろ虫仮面ライダーの顔に似て	田中章子
【佳作】	杖を持ち見まはす案山子祖父に似て 鶏頭を今日も見上げるをんどりよ	田中章子 田中章子
	滑稽の記憶残るは秋うらら 究極の俳句詠みたし秋うらら	田中 勇 田中 勇
【佳作】	曼珠沙華命を見つめさせるなる	田中 勇
	秋の旅高速道は遅速道	田中早苗
【佳作】	風受けても鳴らぬ風鈴頑固者 顔いよ、黒くなりたり秋日濃し	田中早苗 田中早苗
	敬老日金になるのは百貨店	田村米生
【佳作】	鼻提灯下げて夜長の夢の道	田村米生
【佳作】	画用紙に青ばかり塗る秋の空 毒きのこ形も色も見事なり 休耕地コスモス名所となりけり	津田このみ 津田このみ 津田このみ
【佳作】	オスプレイ等知らぬげに翺雲 翺雲生命育む海であれ こともなくはらりと納め秋扇	蔦恵 蔦恵 蔦恵

- | | | |
|------|---|----------------------|
| | 牧水と飲む一合の新酒かな | 飛田正勝 |
| 【佳作】 | 手作りの虫の値を聞き買ひにけり
四五人へ開口一番寄席の秋 | 飛田正勝
飛田正勝 |
| | 継接の雲に貧乏神の旅 | 永島董玉 |
| 【佳作】 | 励ましの言葉に木の葉髪激し
紙マスク顎に紫煙の輪を吐きて | 永島董玉
永島董玉 |
| | 貫一のお宮蹴飛ばす十三夜 | 西をさむ |
| 【佳作】 | 秋雨じゃ濡れて二人の別れかな | 西をさむ |
| | 寿くも祝かるるひとも敬老日 | 原田 曄 |
| 【佳作】 | 赤とんぼ外野の守備につきにけり
あんこうをころりとそつぶ力士かな | 原田 曄
原田 曄 |
| | 穴まどひ誰か助けてくれないか | ひがし愛 |
| 【佳作】 | 穴まどひ盲蛇とは我のこと
毬栗が仲間の栗といがみ合ふ | ひがし愛
ひがし愛 |
| | 世界地図ここからここへ鳥帰る
イマジンを聴こうコスモス咲いたから | 彦阪義久 |
| 【佳作】 | 初恋は語らぬものよ星月夜 | 彦阪義久
彦阪義久 |
| | 足音に啼いても見せてすがれ虫
会釈されマスク外した歯科医かも
消火栓からめ捕ったる灸花 | 久松久子 |
| 【佳作】 | 頬杖や秋思の必需品となり
焼秋刀魚日本の夕餉の定番の
あんぱんに似た雲ふたつ秋うらら | 久松久子
久松久子
久松久子 |
| | 神無月出不精である山の神
何処をどう持つてもなじむ甘藷
昼食をアンパンにして赤い羽根 | 日根野聖子 |
| 【佳作】 | | 日根野聖子
日根野聖子 |
| | 一夜干し肴に昼餉馬肥ゆる
親芋を煮るやごつごつ好好爺 | 広瀬雅幸 |
| 【佳作】 | 酢のものに促されをり新走 | 広瀬雅幸
広瀬雅幸 |
| | さんま焼くレンジフードを全開に
捨てぜりふ隠してしまふ捨扇 | 藤岡蒼樹 |
| 【佳作】 | | 藤岡蒼樹
藤岡蒼樹 |
| | さんま焼くレンジフードを全開に
捨てぜりふ隠してしまふ捨扇 | 藤森荘吉 |
| 【佳作】 | | 藤森荘吉 |

- 【佳作】 日本に悩み数多の秋思かな 藤森荘吉
- 【佳作】 鈴虫になつて来て欲し母なれば 藤原セツ子
手をつなぐ落葉時雨の激しさに 藤原セツ子
- 運動会応援六人子はひとり 前 九疑
カメラパパ駆けて転んだ運動会 前 九疑
【佳作】 ママの声ばかりが響く運動会 前 九疑
- 【佳作】 いつの間に祝はれる側敬老日 まさみ
形相おそろし秋の蚊の襲撃 まさみ
竜淵に潜みしはずが大雨に まさみ
- 秋空を映して流れ梓川 松井寿子
【佳作】 母さんの古着の案山子たたずめり 松井寿子
菊の紺心のひだにしみこめる 松井寿子
- 【佳作】 取口を妻に仕込まれ宮相撲 松尾軍治
一物を広げて踊る狸かな 松尾軍治
石橋を叩いて渡る鉦叩 松尾軍治
- 【佳作】 仇敵の校歌にうつろ夏終る 丸山絃一
レアアース無くば不要の島暑し 丸山絃一
不条理か夏やせ無縁の総理見つ 丸山絃一
- 秋鯖やしばらく休止ダイエット 三塚不二
むさい手の焼栗いなし中華街 三塚不二
【佳作】 そこここに虎刈り残し台風過 三塚不二
- 孫帰へり団栗山へ返しちやる 三橋百笑
仏壇の鉦の響きに秋を知る 三橋百笑
【佳作】 相客は落ち葉と木の実や露天の湯 三橋百笑
- トップ賞ほろほろくっきー秋の句に 宮森 輝
工夫せし精進料理獺祭忌 宮森 輝
【佳作】 子規並に蜜柑一匁たいらげり 宮森 輝
- 佇てば来る三津の渡しや秋うらら 村上美和
【佳作】 秋うらら元は一銭洋食屋 村上美和
- 八つ頭父の教へに従はず 百千草
【佳作】 松手入れ男は半歩先を行く 百千草

- 村芝居じっくり見せておくれんか 百千草
- 【佳作】 草の中機械オタクの轡虫 森岡香代子
芋の露星の流した涎かな 森岡香代子
初さんま口先少し剥がれおり 森岡香代子
- 【佳作】 四季があり季語を探せば子規忌かな 森 要
天高く妻いや馬か惚け迷い 森 要
議員ども梯子挨拶敬老日 森 要
- 木の実落つ音もカ行のコツンかな 八木 健
【佳作】 方言の語尾のばしきり温め酒 八木 健
よそ見している間に開き通草の実 八木 健
- 酔漢の慇懃無礼酔芙蓉 八洲忙閑
【佳作】 長電話笑ひ上戸の夜長かな 八洲忙閑
鉦叩トンツーのごと打ち叩く 八洲忙閑
- ケイタイの電波の切られ西鶴忌 柳 紅生
街頭のパスポートめく赤い羽根 柳 紅生
- 【佳作】 喪の目して白黒猫秋彼岸 柳澤京子
かくれんぼ大好き子猫秋うらら 柳澤京子
新参者猫の恋犬秋うらら 柳澤京子
- 【佳作】 空つづみ叩く花火のばちさばき 山下正純
残猛暑見舞はれ見舞申し上げ 山下正純
夜が夜なら昼も昼なり熱地獄 山下正純
- 【佳作】 蠡斯追ひ掛け回し男の子なり 山本けい子
キリマンジャロの写真を広げ夏の果 山本けい子
二の腕に深々ばらの刺のサイン 山本けい子
- 【佳作】 五歳児もため息をつき九月尽 山本 賜
涼しいね上目遣ひに薬剤師 山本 賜
小春日や鳩人に付く犬に付く 山本 賜
- 【佳作】 ストーカーめきてをりたる冬の蠅 横山喜三郎
失恋の相手と睦び敬老日 横山喜三郎
百人の尻餅に沸く運動会 横山喜三郎
- 【佳作】 秋の蚊も爺を見捨てて子にたかる 渡辺さだを

たわい無き姥の会話や木槿垣

渡辺さだを